

## 真実に目を覆ふことなかれ

教育者にとっては、昔のままの教育を続けてゐる方が楽であるに決つてゐる。だから、真実に目を覆つて見ようもしないのである。然し、それでは子供たちが可哀さうではないか。誰だって、もっと高い知能の持ち主に容易になれ、本だってすらすらと読めて楽しく学習できるといふのに、幼児期に漢字教育をしないため、多くの子供たちが学校で本が読めないで困つてゐるのである。

「教科書が読めない」といふ事のために、すべての学習が苦痛に感じられ、それで学校嫌ひになり、その果てに非行に走つた、といふ子供たちが何と多くゐることか。彼らの多くが、初めから好んで非行に走つたわけでは無いことは言ふまでも無い。いくら努力しても教科書が読めないのでは、学校に行くことが辛いのである。読めない教科書を前に半日坐つてゐることは拷問にも劣らない苦痛であらう。その苦痛から逸れようとして登校拒否をするのは当たり前である。

私はさう思ふので、「教科書を読むだけの能力の無い子供に、親や教師が学習を強制してゐる事が、子供たちを非行に走らせてゐる最大の原因の一つである。だから、学校教育において、先づ教科書を読むことが出来る能力をつけてやる事が何より大切である」ことの認識をせ

ひ有つてほしいと思ふ。

然し、漢字を最もよく覚える時期である幼児期を無為に過したのでは、学校でどんなに良い教育が行はれたところで、教科書がすらすらと読めるやうになれるのは半数であつて、あとの半数は落ちこぼれるのである。その事を考へたら、幼児教育に携はる者は「漢字教育は幼児教育の範囲ではない」と手を拱いてはゐられないはずである。

わが国の大脳生理学を開拓された今は亡き時実利彦先生が「石井先生の幼児期の漢字教育についてとやかく言ふ者が多いが、私は今直に始めるべきだと思つてゐます。言葉と文字を早く身につければ、将来どんな方向にだって伸びられますからね」と仰つた言葉は、今でも私には忘れることが出来ない。

然し、世の教育者、教育学者たちは、時実先生の警告を無視し、大脳生理学を無視して誤つた教育を改めようもしないでゐる。彼らは真実を故意に見まいとしてゐるのである。真実を知ることが恐しいのである。自分が今まで行って来た教育が誤つてゐた、とは思ひたくないからである。

私は、ここで某幼稚園長の告白を思ひ出さずにはゐられない。「石井方式漢字教育を初めて耳にした時には『そんな馬鹿な事があるはずはない』と思つてそのまま追究しないで過した。その後、講演を聴いた

が、その時には、時々耳を覆ひたくなつた。それでも、ためらひながら石井先生の著書を読まずにはゐられなかつた。その時にも、途中で、本を閉ぢて読むのを止めようと思つた事が何度あつたか知れない。それほど眞実を知ることが恐ろしかった」と。

「今まで何十年といふ長い年月、子供のために役立つ良い教育と信じて行つて来たものが、その根柢から間違つてゐた」などといふ事は、確かに聞くに耐へない事である。まして、それがはっきりと間違つてゐる証拠を突きつけられ、誤りであることを思ひ知らされたら、誰でも愕然とすると同時に、たまらないほどの空しさを覚えるに違ひない。だから、某園長の「耳を覆ひたくなつた」といふ気持ちが私にもよく解る。然し、幼児たちの将来を思つて、矛盾する気持ちを克服し、眞実の道を選んだ事に対して、私は敬意を表せずにはゐられない。

と同時に、世の教育者、教育学者たちに、「眞実に対して目を覆ふなかれ」と声を大にして言ひたい。道を半ば歩んでしまつてから眞実を知るとは確かに辛い事であらう。苦しい事はよく解るが、眞実に目を覆ふ行為に同情することは出来ない。そのままに過ぎたら、子供たちを不幸に陥れることになるからである。どんなに辛くあらうとも、眞実から目を背けてはならないのである。